

I. 事業活動の総括（平成14.4～平成15.3）

変わらない日本経済への苛立ち

日本経済は、不況の真っ只中にあります。内外からの風圧はきびしい。昨14年度を振り返ったとき、「何が変わったか、明日が見えてきたか」と思うほど変わることができませんでした。

日本経済の低迷の原因は、第1にGDPの60%を占める消費の低迷、第2に企業の含み資産となっていた平均株価の18年ぶりの安値圏に入った大幅な下落、第3に20兆円を超える不良債権処理の遅れ、第4に戦後最高水準にある5.6%の失業率、加えてリストラ多発、倒産件数の継続的増加などマクロ的要因を上げることができます。

また、過去10年間の地価、株価の下落で、企業の財務内容は大幅に悪化し、借金返済におわれ、家計は貯蓄に向い、総需要は減り、したがって、設備投資に向かわず経済は縮小し、まさにデフレ・スパイラルに陥りました。

国際的観点からも大きな変化がありました。第1に中国をはじめとしてアジア諸国の経済発展は、日本の経済収支構造の変化をもたらし、企業の投資は海外に重点を移し、国内の設備投資は低下、総じて経済成長はゼロ化し、年初より一層後退しました。

3月20日に勃発したイラク戦争も4月中旬には米英の圧倒的な軍事力の差で終結に向かっています。これから、新しい国づくりのために復興が進められますが、世界経済にとっては、マイナス要因となる面が多く、わが国に対する影響も多大なものがあります。わが国は新たな試練の中で、再生後の姿を描き、思いきった打開策を打ち、構造を変革し、そこに近づ

けるべく強いリーダーシップのもとで実現のため行動に着手すべき時を迎えました。

このような状況下で、当連盟は産業界、会員が今何に困っているのか、ニーズを的確に捉え、企業の構造改革、新しいマネジメント・システムへの取り組み、現場改善、人材育成、そして企業の国際化対応など強力な支援活動の展開により、当初計画通りの成果をあげることができました。本年の主な実施事業の実績は以下の通りです。

1. 国内コンサルティング事業

- (1) 本部（名古屋）301プロジェクト、東京本部115プロジェクト、長野コンサルティングセンター13プロジェクト、総計429のプロジェクトのコンサルテーション、企業内研修を実施しました。
- (2) 48専門機関により要請を受け、コンサルテーション、教育訓練調査の協力をしました。

受注先	本部	東京	長野	総計
一般会員企業・非会員企業	301	115	13	429
専門機関・公共機関			48	

(3) 主要コンサルティングテーマと傾向

- ①企業のグローバルな展開に対応した世界標準化、IT革新技術の適用、新しいビジネス・モデルの構築
- ②営業力診断と開発、営業戦略シナリオ立案、営業の生産性の向上
- ③順序化・流れ化・見える化による業務革新、市場競争力強化実践プログラム、実需連動型サプライチェーンの構築プログラム
- ④業績評価システムの構築と定着、新人事システムの改革

- ⑤「儲かる工場づくり」－生産体質改革のプログラムの推進
- ⑥徹底したコスト・リダクション、品質保証体制の確立、VM（目で見える経営）による在庫削減と生産納期短縮、TPS導入による製造現場の改善

2. 研究開発事業活動

(1) 職員の発表論文と受賞状況

- ①第54回全国能率大会 第Ⅰ部平成14年7月9日、第Ⅱ部平成14年11月15日、16日（於：東京都）が開かれ、当連盟職員の研究論文が次のように受賞しました。

◇全能連賞（第53回大会発表論文）

流通・マーケティングの革新に関するもの

「セールス・プロセスマネジメント 営業業務への品質管理の導入による業務効率の向上」 主任コンサルタント 山崎 康夫

◇入選（第54回大会発表論文）

研究開発・生産の革新に関するもの

「中小製造業におけるDBR（ドラム・バッファー・ロープ）の実践」

コンサルタント 松田 英一

人事・組織の革新に関するもの

「人事制度設計プロセスにおける自律型企業、人材育成を推進するためのプログラム～会社員に対する社員意識調査を初動とする企業改革～」

コンサルタント 柘植 吉則

経営戦略の革新に関するもの

「IMS（統合マネジメントシステム）～経営全般を志向したマネジ

メントシステムの一元化と効率向上～」

コンサルタント 畑澤 馨

②2002年度品質管理学会 第69回研究発表会（平成14年5月）において当連盟職員が次の研究論文を発表しました。

「コンプライアンス・マネジメントの新たなフレームワークと自己評価方法」 主任コンサルタント 長谷 勝

(2) 平成14年度 全能連顕彰者

顕彰牌 鈴木 敏雄

表彰牌 樋口 利正

高木 辰夫

(3) 専門書、専門誌、テレビ出演などの活動

・「吹き上げてくる風 アジアものづくり現場検証の旅」

ネットあいち産業情報「ペリスコープ」 (平成14年4月号)

・「トップの執念」ネットあいち産業情報「ペリスコープ」

(平成14年10月号)

・「マーケティング情報科学読本」(共著) 同友館 (平成14年7月5日)

竹内 弘之

・「オムニマネジメント」日本経営協会

“10～30年耐えられる新しい基盤やパラダイム構築が使命”

(平成15年1月) 福山 穰

・「マネジャーのための経営思想ハンドブック」(翻訳)

(ピアソン・エデュケーション) (平成14年12年) 梶川 達也

・「中小企業のためのISO9001とISO14001の統合」(監修、共著)

日刊工業新聞社 (平成14年10月) 清水 益文、山内 昌彦

- 「緊急不況対策」 秋田朝日放送 (平成14年6月20日放映)
山名 敏文
- 「工場改善事例」 織研新聞 (平成14年11月5日) 山名 敏文
- 「新商品新事業開発大事典」(共著) 日刊工業新聞社
(平成14年6月28日) 吉原 靖彦、真部 助彦
- 「5S 100の法則」 近代文芸社 (平成14年9月1日) 正木 英昭
- 「ISOマネジメント」 日刊工業新聞社
“効果的な内部環境監査を行う方法” (平成14年7月号) 関根 明郎

(4) 第15回マネジメント大会開催

テーマ：閉塞感からの脱出 明日への光明を目指して

参加人数：573名 (第1部会 258名 第2部会 315名)

会場：ヒルトン名古屋

開催日：平成14年10月30日(木)

(5) 第9回東京マネジメント大会開催

テーマ：経営革新への提言 ～革新的マネジメント手法と推進事例～

参加人数：200名 (総合部会 103名 生産・ISO部会 97名)

会場：アルカディア市ヶ谷

開催日：平成14年10月21日(月)

3. 「日本経営管理標準JMS」推進事業活動

日本経営管理標準 (JMS) 推進機構 (理事長 渡辺捷昭：トヨタ自動車(株)取締役副社長) は、JMSの普及と発展を図るため、当連盟の付設機関として平成14年3月に設立されました。具体的な展開をすべく平成14年5月から平成15年1月まで3回にわたり企画委員会を開催し、今後の

JMSの普及と発展の方向付け等を検討し、とりまとめて理事会に上申しました。そして、平成15年3月4日の理事会にて平成15年度活動計画を審議し、決定しました。

(1) 公開セミナー

昨年に引き続き、役員・上級管理者のためのJMS社内診断セミナーを開催しました。

コース名	コース数	参加者数
共通編	6	66
各論編*	25	99
計	31	165

*各論編（経営管理、人材、品質保証、原価、環境、安全、開発、生産技術、購買・仕入先管理、現場管理と改善、設備保全、製造品質、営業力）

(2) 企業内研修

「JMS社内診断」をテーマにして、9社（参加者数：489名）実施

(3) JMS診断・改善

JMS診断および改善は、昨年9月以降、自動車部品製造業5社、電子部品製造業1社に対して実施中

(4) 解説書・チェックシートの頒布

日本経営管理標準(JMS)を広く普及するため、JMS社内診断セミナーで使用している教材を再編集し発刊・頒布

(5) JMSに関連したコンサルテーションを製造業4社に対して、以下のテーマで実施

①海外生産拠点における生産・物流改善

②開発・生産準備の改善

③全社的な品質革新活動の支援

4. 国際協力事業活動

項 目		実施場所		備 考
		海 外	国 内	
研修事業	長期受託コース		名古屋 (4コース)	全社的品質・生産性向上研修 (メキシコ)、中小企業経営研修 (南アフリカ)、生産管理研修 (南アフリカ)、生産システム改 善技術研修(ルーマニア)
	専門家派遣	12件		AOTSほか
	国際協力研修コース	1件		南アフリカ
コンサルティング 教育研修	改善プロジェクト	1件		シンガポール
国際会議	2002FEACO年次 大会日本代表団	ポルトガ ル・リス ボン		平成4年5月21日～5月30日
	ISOビジネス懇談 会シンポジウム	タイ・ チェン マイ		平成14年7月24日～7月29日
研究開発	人材開発認定制 度IIP (Investors in People)	イギリ ス・ロ ンドン		平成15年3月7日～3月14日
教育研修 と現場巡 回指導	VM診断	タイ・ バンコ ク2回		平成14年6月16日～6月19日 平成14年10月30日～11月3日

5. 東京本部事業活動

(1) コンサルティング事業

VM（目で見る経営）活動の推進による企業体質の改革、フレキシブル生産システムの確立による生産革新の推進、生産現場改善によるコストダウン、5S活動の推進、在庫削減の推進、管理会計制度の導入、経営計画の策定、目標管理制度の導入、人事制度の革新と組織の活性化の推進、賃金制度・退職金制度の改革、管理・間接業務の効率化、ISO9000の認証取得のための品質システムの確立、ISO14000認証取得のための品質保証体制の確立など123社に対してコンサルテーションを実施しました。

(2) マネジメント研修事業

①MSC会（経営戦略同好会）は、19社の参加により毎月1回異業種交流と経営研修活動を実施しました。

「独自性のあるビジネスとマネジメント成功の要点」

ソニー(株)顧問 白倉一幸氏、元理事 山縣研二氏 ほか

(3) 中産連VM賞（Visual Management＝目で見る経営）の授与

VM活動を推進して企業体質の革新が図られた静岡パイオニア(株)と新神戸電機(株)に対して平成14年5月13日に中産連VM賞本賞を授与して表彰しました。

6. 長野・信越地区事業活動

(1) 事業活動の総括

長野コンサルティングセンターは昨年度に引き続き「より顧客満足度の高いコンサルティング・サービス」と「新しいニーズの掘り起こ

し」のための商品開発に注力してまいりました。また、成果に直結するコンサルティング方式を確立したこと、工場技術に立脚した品質不良の攻略法や管理者のための原価低減活動の展開法など、これまで以上に強力なコンサルティング商品を開発したこと、などにより新たな成長要因も加わってまいりました。

① コンサルテーション

生産効率化プロジェクトほか 総数 15社

② 研究会・共同事業

J E塾OB会ほか 総数 8テーマ

(2) システム・商品開発の動向

① 『作業改善＋簡易自動化＋品質改善＋管理監督者コーチング』を融合化し、確実にねらった成果を実現するコンサルティング方式確立

② 人為ミスゼロを目差した『A-KOMIK品質管理』方式の開発

③ 経費の発生メカニズムを原単位の形で数値化し、このモノサジを使って経費予算管理を実施する管理者のための業績管理システムの開発

7. ISO事業推進活動

(1) 事業活動の総括

① ISO9000、ISO14000に関する研究会を継続実施しました。

② ISO9000/14000など認証取得支援のためのコンサルティング機関ならびに教育機関として(審査機関である財団法人日本品質保証機構《JQA》と業務協力)、連盟所属コンサルタントのうち、約80名が主任審査員、審査員ならびに審査員補(JRCA, IRCA、CEAR認定)の資格を有し、わが国屈指の機関となりました。

これにより、365件のコンサルティング、受審査前診断指導、内部監査員養成講座などの支援活動を実施しました。また、公開研修コースは、全国各地（東京地区は除く）で開催し、実施回数が265回、参加者数3,578名でした。

③ISO9000および14001の審査員研修機関（財団法人日本適合性認定協会《JAB》から認定）として審査員研修を実施しました。ISO9000およびISO14001の両方に認定されているのは中部地区のマネジメント専門団体では、唯一の機関です。

(2) 事業実績

①ISO9000／14000関係

事業名	ISO9000関係	ISO14001関係
1. コンサルテーション	256件	85件
2. 企業内研修	168回	74回
3. 研究会	20社 4回	26社
4. 教材販売	ISOモデラー文書管理システムのソフト販売 2件	
5. JQA支援業務	審査申請代行ほか	審査申請代行ほか
6. 公開研修	166回	86回
7. 審査員コース	10回	9回
8. 現場見学会		3回
9. OHSAS18001審査員コース		1回
10. HACCP（食品安全衛生システム）		1回
11. BS7799研修		6回
12. OHSAS研修		7回
13. 情報セキュリティ		7回
14. OHSAS18001（労働安全衛生マネジメントシステム）コンサルテーション		3件
15. BS7799（情報セキュリティシステム）コンサルテーション		5件

②第5回欧州環境視察団を平成14年9月22日～29日の間派遣しました。

11社 16名参加（事務局を入れ総員18名）

8. マネジメント営業推進事業活動

受注件数

事業名	件数
コンサルテーション	137件
企業内研修	44件
紹介セミナー	7プロジェクト、参加者133名
グローバルマネジメント意見交換会	3社4名

9. マネジメント開発事業活動

(1) 公開研修

①「経営後継者養成アカデミー（JEA）」（研修修了生延べ230名）

第36期JEAは、5名の研修生を迎え実施しました。

②「語り継ぐ経営研究会」（略称 加藤塾）

講師に豊田合成㈱顧問加藤宗平氏を迎え、4回実施しました。

③「経営トップ朝食会」

官・財界の第一人者を迎え、朝食会形式で全3回実施しました。

平成14年7月19日（第141回）名古屋観光ホテルにて

講師：内閣官房情報セキュリティ対策推進室副室長

廣田耕一氏 ほか

④青年社長倶楽部

中部財界の明日を担う若手経営者を中心とした研究会を全9回実施しました。平成14年7月24日（第3回）㈱ココストア本社にて

講師：㈱ココストア代表取締役 盛田 宏氏 ほか

- ⑤ノートルダム大学共同企画「エグゼクティブ短期特別プログラム」
第6回目の開催を迎えました本コースは、8社9名の参加を頂き、3週間（平成14年6月7日～6月30日）にわたる研修を実施しました。本コースは、米国インディアナ州にありますノートルダム大学での異文化理解（米国社会・文化・ビジネス分野）に焦点を当てた短期留学研修

- ⑥2002年「ビジネスイノベーションスクール」

7社8名の方にご参加頂き、平成14年10月25日～平成15年1月10日の期間にわたり、愛知学院大学経営学部との共催により、教授陣と先進優良企業の経営者の方々を講師にお招きして、ライブケース4回を実施しました。

平成14年10月25日 愛知学院大学にて

講師：㈱ミスミ相談役 田口 弘氏 ほか

(2) 受託事業

- ①「環境パートナーシップ・CLUB (EPOC)」会員310社

会長：安井 義博氏（ブラザー工業㈱社長）

- ②戦略的情報化投資活性化促進事業（ITSSP）

コーディネータ交流会

（中部ブロック5県（愛知、岐阜、三重、富山、石川））

成果発表会

開催日：平成15年1月17日（金） 参加者 84名

10. トヨタ生産方式研究会事業活動

(1) 特別講演「トヨタ生産方式の本質と進化」

トヨタ自動車(株)技監林南八氏

春 季	PART I (改善の進め方)	平成14年5月14日～16日	参加300名
	PART II (作業改善実習)	平成14年6月16日～21日	参加 64名
秋 季	PART I (改善の進め方)	平成14年9月3日～5日	参加242名
	PART II (作業改善実習)	平成14年10月20日～25日	参加 64名

11. 会員事業推進活動

(マネジメント研修センター)

マネジメント研修センターでは、創造性豊かな人材の育成をねらいに、中産連“創造の船”(第18回)実施しました。また、会員企業を中心に産業界全体に対し、時代の要請に応え得る人材を育成する公開研修事業や技術革新、グローバル化に対応した長期研究会、海外視察団の編成、様々な課題や要望に合わせた企業内研修、コンサルテーション事業を活発に展開しました。

① 第18回中産連「創造の船」派遣

日本クルーズ客船(株)ふじ丸 24,000t

平成14年10月14日(月)～10月20日(日) 7日間

参加者 112社 206名

訪問都市 中国(天津、北京、上海)

② 松下経営革新(8コース)

資材購買改革、品質管理、5S推進、生産管理、原価管理 ほか

参加者 157社 181名

③ 公開セミナー

コース名	開催回数	参加者
1. 階層別基本研修	48回	1,074名
2. 生産部門研修	56回	929名
3. 営業部門関係	14回	344名
4. 経理部門関係	11回	180名
5. 人事部門関係	7回	106名
6. ヒューマンスキル事業	18回	249名
7. 業務改革(改善、IT)	4回	52名
8. 物流部門	9回	177名
9. 紹介セミナー	5回	124名

④企業内事業

企業内研修	162回	—
-------	------	---

⑤ 受託事務局

日本設備管理学会 東海支部

(マネジメント事業プロジェクト)

(1) 公開コース (延べ日数 39日 延べ人数1,116名)

①研究会(9日 延べ243人)

名称	参加者	開催日
2002年 経済研究会	27社27名	4/17、5/28、6/12、7/18、8/21、 9/18、10/17、11/13、12/19

②公開研修

マネジメント事業	プロジェクト数	日数	参加人数(延べ)
公開セミナー事業	24コース	30日	873名

(2) 企業内プロジェクト

- ・工場改善プロジェクト、業務改善プロジェクト
- ・VE入門講座
- ・VEL受験直前セミナー

(3) 受託事務局

- ・(社)日本バリュー・エンジニアリング協会中部支部

(会員サービスセンター)

会員のためのサービス事業の推進を主眼として活発に事業展開し、併せて未加入企業へも当連盟の活動をご理解いただき入会いただくよう会勢拡大に努めました。

(1) プロGRESS (中産連機関誌・月刊マネジメント専門誌) の発行

新しいマネジメントの提言、企業戦略の紹介など実践的内容で毎号特集方式とし、会員企業の関心の高いテーマを特集テーマとしてとりあげました。発行部数：2,200部

(2) 会員懇話会 (無料講演会)

タイムリーで話題性の高いテーマを毎回とりあげ、会員各位の期待に応えました。

「1000年の釘」鍛冶職人のロマンと誇り

白鷹 幸伯氏 (土佐派鍛冶師二代目興光) ほか

(3) 中産連人材育成フォーラム

創造性豊かな人材育成をめざし、これから人材育成をご提案し、平成15年度研修事業計画を説明しました。参加者148名

(4) マネジメント小冊子(無料)の発行

- ・平成14年度中産連会員懇話会抄録集

(5) 中産連会員名簿発行

(6) 中産連案内パンフレットの新規制作

- A Sense of Mission 明日を拓き、人を育む

- Power of Human 変革を成し遂げる、人の力（簡易版）

(7) 中産連ホームページ

当連盟団体概要の紹介、会員企業へのリンクサービスのほか、電子メールによるセミナーの申し込み等の情報提供を致しました。

(8) 受託事務局

日本経営近代化協会（SAM）名古屋支部

日本広報学会中部部会

12. 理事会・総会

(1) 第237回理事会 平成14年5月16日開催（理事48名 監事2名出席）

(2) 平成14年度通常総会 平成14年6月12日開催（620会員出席）

(3) 臨時理事会 平成14年6月12日開催（理事48名 監事1名出席）

(4) 第238回理事会 平成14年11月11日開催（理事49名 監事1名出席）

(5) 第239回理事会 平成15年3月12日開催（理事49名 監事1名出席）

会勢 858社（入会29社 退会81社）（平成15年3月31日現在）

以上、諸活動の結果として収支実績は、本年度当期収入予算24億6,260万円に対して、24億9,451万円（対予算比101.3%）でした。